

## 令和4年度 第3回佐賀県立牛津高等学校魅力強化委員会議事録

1. 日時：令和5年2月13日（月）17：00～18：15
2. 場所：佐賀県立牛津高等学校 会議室
3. 参加者：委員…長戸会長、古川委員、高元委員、横尾委員、山田委員、中尾委員、  
金森委員、滝委員、東島委員（Zoom参加）、江頭校長（以上10名）  
県教育委員会…細國指導主事  
事務局…北村教頭、石橋統括事務長、平方  
傍聴者…なし
4. 会次第および議事
  - (1) 開会
  - (2) 学校長挨拶
  - (3) 協議
    - ① 令和4年度学校評価の結果（案）及び学校関係者評価について
      - ◎ 学力の向上について
        - 共通教科の基礎学力の向上
          - ・2年生は4月から9月で成績が下降したとあるが、その後についてはどのような状況か
            - 進路及び2年学年団は危機感を持っており、2年学年団でまとまって教材を配布するなどという工夫を行っている。ただ、無理強いをするわけではなく、生徒のやる気を引き出すような形を意識している。来年度4月にふたたび基礎学力の診断が行われるので、その結果を踏まえて再び分析する予定である。
        - ◎ 心の教育について
          - 志を高め、思いやりの心を持った他人のために働くことのできる生徒の育成
            - ・ボランティアの募集については、学校側からの働きかけによるものなのか
              - どこが企画するかによる。家庭クラブが企画する場合には家庭クラブがチラシ等も作成して生徒に呼びかけるが、他の団体の場合には、学校で団体が説明会を行ってくれることもあり、その場合には校内で説明会への案内を行う。これ以外にもボランティア募集ポスターの掲示のみの場合もあるが、その場合でも積極的に参加してくれている。

・特定の生徒がボランティアに参加する傾向があり、ボランティアのすそ野を広げることが課題とあったが、学科によってボランティア参加に特徴はあるのか。

→ 食品調理科が多い傾向はある。特に子ども食堂の依頼などでは、食に興味のある生徒が参加するため、どうしても食品調理科が多くなる傾向となる。ボランティアが「楽しかった」といった感想を、食品調理科では先輩からのつながりで継続しているようである。

・ボランティアに関しては、友人からの誘いなどが有効であろうと思われる。学校はその雰囲気づくりを行ったほうがよいであろう。

#### ◎ 学校評価に関連する学校評価アンケートについて

##### ○ 牛津高校に来て（行かせて）よかったと思う

・保護者からの評価は高いが、生徒について「そう思わない」や「わからない」に対して、「どうしてそう思ったのか」といったような踏み込んだ質問は行ったか。

→ 現在のところはまだその質問は行っていない。保護者及び職員については無記名で、生徒についてはアプリを用いて記名式でアンケートを取っている。

・希望をもって入学したが、思っていた勉強と違っていたり、進路について途中で心変わりしたとかいろいろなことが考えられる。今後新しく入学してくる生徒の参考資料となるようなアンケートを、無記名でも大丈夫だと思うので、入学した時とのギャップがどのようなところに出たのかを調べることは今後にもつながるのではないか。

・外部から見た雰囲気が、だいぶ柔らかくなった印象を受ける。ルールの面でもカバンや服装などの自由度が上がったようで、このような点が、牛津高校に対する抵抗力を少し和らげているのではないかと思う。

##### ○ 全体的な傾向

・教職員の評価が全体的に下がっているようであるが、これについて考えられる要因はあるか。

→ 無記名のアンケートため、だれが否定的もしくは「わからない」と回答したかはわからない。教職員対象のアンケートのため、教員以外の事務職員や会計年度任用職員なども含まれているとはいえ、「わからない」という回答が多くなったことはチーム学校の観点からも深刻にとらえている。「わからない」が無関心であるとすれば、反省すべき点が多いと考えている。

##### ○ いじめの早期発見に積極的に取り組んでいる

・職員は肯定的な意見が多いが、生徒や保護者では「やや思わない」や「そ

う思わない」「わからない」などの否定的な意見が少なくない印象を受ける。この食い違いについて心配とを感じるが、どのように評価しているか。生徒の中には「気づいてもらっていない」と感じている生徒がいるのではないか。

→ 職員は研修会などを通じて少しでも疑わしい事案があれば、速やかに報告等を行うよう意識して取り組んでいるため、職員のアンケート結果では肯定的意見が多いのは妥当と考える。保護者や生徒については、いじめの被害や加害にかかわっていない生徒が大多数であり、そのような保護者や生徒にとっては「わからない」、ぼんやりと何となく動いてもらっているといったイメージがあるために、職員と保護者や生徒との間に意見の食い違いがあるのではないか。否定的な意見を回答した生徒は少ないとはいえ、いるのも事実であるので、真摯に受け止めて対応に当たりたい。

・いじめの対応については、牛津高校はかなり丁寧に行っているという印象がある。

#### ◎学校関係者評価の承認について

・この場で承認を行う必要はあるか

→ 今回頂いた意見を学校評価部会で頂いた学校関係者評価に加え、反映させた形で作成し、議事録と合わせて学校関係者評価もメールで送付し、最終的に承認を得たい。

・その方針で構わない

#### ② 令和5年度学校評価計画の素案について

特に意見はなかった。

#### ③ 令和4年度 SAGA コラボレーション・スクール事業の評価について

##### ◎ 意識変容の因子分析について

・2年生は「満足感」が下がっているとのことであるが、それ以外は伸びている。前回（7月）は全体的に2年生が心配だという話があったが、レーダーチャートの面積は広がっており、良かったと思っている。1年生はやや面積が小さくなっており、高校の中では、1年生から2年生でやや全体的な意識が下がった後に2年生改善し、3年生で落ち着くのではないかという印象を持った。

→ 2年生の全体的な意識の向上はこちらも安心したところである。自己肯定感は大きな伸びを見せているにもかかわらず、満足感の低下がみられているところについて、どのような原因かは今後分析しなければならないと考えている。

・学科によっても特徴がみられるので興味深い。

##### ◎ コラボレーション・スクール事業の「地域」について

・コラボレーション・スクールの「地域」の定義はどのようにかんがえればよい

のか。学校の所在地と考えるか、生徒の出身地と考えるのか、または佐賀県全体と考えるのか。

→ 県としては地域の定義づけについては特にはない。(教育振興課)

・せっかく地元には高校があるのに、高校がある市町と連携がなされていないのはもったいないと感じていた。小城市としては小城高校と牛津高校があり、西九州大学もあるので地域の資源として何か連携した取組をと、まずは考えている。県立高校だからということで、市町とは関係ないわけではなく、県立であったとしても地元との連携は重視してほしい。

・佐世保市立の中学校に興味のある生徒がいるという話を聞いたが、県外の生徒にとっては小城市というところを地域として魅力を感じないかもしれない。西九州大学でもいろいろなところからきているが、地域という話をした時には自分の地元ととらえて、地元で何ができるかを考えようと言っている。自分が住んでいる場所を地域ととらえる考え方もある。県外から来る生徒であれば、そのような考え方のほうがアピールになるのではないかと思う。

→ 今回のアンケート調査についても「地域」という文言が含まれており、地域とは何かという質問が生徒からも来る。ただ、地域の定義をあまりにきちんとやりすぎるのもよくないと考えている。例えば、小城市の「たなだ部」の活動には有田町や神崎市在住の生徒が来てくれている。生徒たちは小城市も地域と考えてくれているのではないか。もちろん、地元のボランティア活動も参加している生徒がいると思うので、地域という言葉は両方ともあって、ゆるやかでいいのではないかと考えている。

④ 令和5年度 SAGA コラボレーション・スクール事業の計画について

・コーディネーターも決まってやっと形ができつつある。来年度1年間でより発展させてさらに再来年に成果を出してほしい。

⑤ 5年度の事業及び魅力強化委員会について

・他の部会の動きは確かにわかっていないこともある。まだ試行錯誤しながらやっていく段階であるので、まずはやってみたらどうか。

※ 次年度の委員会の開催方法については、承認された。

⑥ その他

○ 情報の発信について

・勤めている銀行が YouTube などでも牛津高校とコラボレーションしたいと考えている。具体的なことについては、後日相談したい。銀行も堅いイメージから脱却したいと考えている。

→ 貴行の社食へのメニューの提供なども考えたい。

・松花堂弁当などの提供も検討したいと考えている。

○ ジェンダーレスの制服について

・今行われているジェンダーレスの制服について、生徒の反応はあるか。例えば制服がジェンダーレスだから牛津高校に来てみたいとか言った意見はあるか。

→ そのような言葉については、直接は聞いていない。制服についてはいろいろな着方が存在している。昔と違って今は女性でもブルーのシャツやネクタイ、スラックスを着用している生徒もいる。制服の着方に様々な組み合わせがあることが普通になっている。

## 5. 閉会